

西洋文化史 7

時代：前 2090/50-1600

前期青銅器時代 I I I 期からの移行

土器の変化

アドリア式土器の消滅

灰色ミニュアス式土器の発展と拡大

キクラデスと類似した鈍彩土器

暴力的破壊をとまなわず

土器の主要なクラス

ミニュアス式土器

前期青銅器時代 I I I 期のあいだは周縁的にとどまり、一つのタイプしかなかった（二本の取っ手のついた腹部が丸く出た壺）

質の向上と量の増加

灰色ミニュアス式土器 黒色ミニュアス式土器 赤色ミニュアス式土器

カンタロス（二本の取っ手の付いた深鉢） 角張り、線刻による装飾

ゴブレットの大流行（中期） 黄色ミニュアス式土器の出現（中期末）

土器表面が磨かれる（後期） 小型土器の出現（キクラデスの影響） 時として鈍彩

鈍彩土器

器形はミニュアス式土器の影響

初期の装飾は直線というモチーフ 後にスパイラルなどの曲線のモチーフ

さらには鳥や植物などの具象的モチーフ

土器の地域差

灰色ミニュアス式土器

中部ギリシア

黒色ミニュアス式土器

ペロポネソス

黄色ミニュアス式土器

エウボイアでは発見されず

鈍彩土器

フォキスやエウボイアではまれ

南アルゴリス

前期青銅器時代 I I 期末の遺跡数の激減

30 から 1（確実）。 2（不確実）

1200 名から 100 名へ

人口減少

中期青銅器時代中期の回復

遺跡数

5 へ（中規模の村落が 3）

分散的独立農家の形態をとらず

経済基盤は穀物生産と牧畜

後退局面より回復

1200 名から 100 名へ

中期ヘラディック末（前 1650 年頃）

MHIII-LHI : MHIII=1700/1650~1600 ; LHI=1600~1500

中期ヘラディックから後期ヘラディックへの移行期 :

竪穴墓 (Shaft Grave) の出現 / メッセニアではソロス墓

円形墓 A : 1871 年にシュリーマンとスタマキスによって発見

6 個の竪穴墓を含む (I ~ VI)

前 1600~1500 : 後期ヘラディック I ~ II 期

3 世代に亘って使用される

周囲が 150 メートルあり、III B 期に城壁の中に含まれる

3, 4, 5 墓の副葬品は非常に立派。

円形墓 B : 1950 年代にミュロナスによって発見

円形墓 A に先行

円形墓 B の最後のものが円形墓 A の最初のものと同じ時期に属する

前 1650~1550 : 中期ヘラディック後期~後期ヘラディック II 期

7 世代に亘る使用。土器の出土が多いが青銅製の剣などが発見

後期ヘラディック期 (ミケーネ時代) : 前 1600~1065 年頃

1) 考古学的には・・・竪穴墓・ソロス墓の出現

豪華な副葬品 (黄金製品等) } 王朝の出現

2~3 世代使用

王宮の出現

遺跡数の増加

↓

このような文明発展に対する従来の説 :

アカイア人の侵入と征服 (前 1600 年頃)

現在 : 文化的連続性の強調

黄色ミニュアス式土器 : 後期ヘラディック期でも制作

竪穴墓の起源 : 中期ヘラディック期に遡る

2) 花粉からは・・・イネ科の雑草

穀物型イネ科	増加	→活発な農耕
ヘラオオバコ	増加	→牧畜の活発な活動
ナラ	減少	}
ゲンゲ	増加	

↓

後期ヘラディック後期の変調

イネ科の雑草	}	減少	→農耕の減退
穀物型イネ科			
ヘラオオバコ		相対的増加	→牧畜への傾斜
ナラ	回復	}	森林伐採と土地開発の低下
ゲンゲ	減少		

全体として地中海農業の特徴であるオリーブやブドウの花粉の欠如

今日の地中海地方の風景を特徴付けるマツの欠如

(ダイヤグラムに現れるのは遠方より風によって飛ばされて来たもの)

2) 文献史料によって明らかにされて来たもの